

Literature cited

P. C. Chen & P. C. Wu (1965). Preliminary study of the bryophytes of Mt. Hwangshan. *Observ. Fl. Hwangshanica*: 1-59.

* * * *

最近、塩見隆行氏によって山口県厚狭郡楠町の荒滝山で採集されたハネゴケ属苔類の 1 種は、これまで中国の上海附近からだけ記録されていた *Plagiochila shangaica* Steph. であった。ジュネーブ (G) に保管されているタイプと比較したが、日本のものは植物体や葉がやや大形になり、すべてステリルである以外は、重要な形質がすべて中国産のタイプに一致する。中国東部のコケ類フロラは西日本のフロラと極めてよく似ているが、このハネゴケ属のものも共通種の一つに数えられる。なお、本種に対して、ジャンハイハネゴケなる和名が塩見・鈴岡両氏によってつけられている (山口県立山口博物館編：山口県のコケとシダ, 1982)。

○高等植物分布資料 (105) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (105)

○ナツツバキ *Stewartia pseudocamellia* Maxim. ナツツバキは従来、福島県磐城、会津地方および新潟県以南の本州、四国および九州に生育するとされている。しかし、宮城県本吉郡志津川町には自生するという記録があり (宮城県動植物分布状況調査報告書 1973)、確認する必要がある。最近、気仙沼市農林課の須藤哲男氏から、気仙沼市鹿折字白石の平貝沢と白石国有林黒沢山 (両地は北緯 38° 59' 30" に位置する) に、ナツツバキが多数生育しているとの連絡をうけ、昭和 57 年 7 月 13 日に現地調査を行ない、自生を確認した。平貝沢の生育地は西向き斜面で、傾斜角は 42° と急峻であり、昭和 55 年にコナラ林を伐採し、ヒノキの植林がされている。黒沢山の生育地は北東向き斜面で、傾斜角度は 25° であり、イヌブナ、アズサ、クリ、カスミザクラ、ヒトツバカエデなどの落葉広葉樹林である。両地区で合計 12 株の生育を認めたが、そのうちの最大のは樹高 12 m、胸高直径 17.9 cm であった。この地域の周辺には、さらに多数の生育が期待される。また、この地の沢向いの尾根上が宮城県と岩手県の県境であることから、岩手県陸前高田市域にもナツツバキの生育する可能性がある。なお、証拠標本 (T. Naito 8271301) は、東北大学理学部生物学教室標本室 (TUS) および同附属植物園標本室 (TUSG) とに入れておく。

(東北大学理学部附属植物園 内藤 俊彦 Toshihiko NAITO)